

●きのこの観察

<ツヤウチワタケ>

前回の観察会でも見られましたが、集積されているコナラの枯枝から発生しています。

このきのこの本体は木材を分解して栄養にしています。

私たちが“きのこ”と呼んでいる扇形のは“子実体”と呼ばれ、子孫を増やすための胞子を作る部分で、植物の“花”に相当します。

ツヤウチワタケの子実体の下側の面には小さな穴がたくさんあり、この穴の中の表面に胞子が作られます。

シイタケなどの柔らかいきのこは、数日で腐ったりしおれたりしますが、ツヤウチワタケなどの硬いきのこは細胞壁の厚い細胞からできていて、数か月以上その形が保たれ、湿度の高い日・時間に繰り返し胞子を飛ばすことができます。

前回の観察会でもツヤウチワタケを見ましたが、この時は昨年が発生し、残ったものでした。今回は今年が発生したものです。



コナラの枯れ枝から生えたツヤウチワタケ



ツヤウチワタケの傘の裏。小さな穴がびっしり

<キクバナイグチ>

スギやヒノキの幹からきのこが発生しています。一見するとスギ・ヒノキの樹皮や材を分解して栄養にしているように見えますが、そうではありません。

キクバナイグチは菌根菌で、生きている樹木（ここではシラカシ？）と菌根を形成して、共生関係にあります。植物は菌根菌から水分などを得て、菌根菌は植物から栄養を得ているとされています。

ところで、キクバナイグチのきのこはどうしてスギの幹から生えているのでしょうか？

キクバナイグチの本体（菌糸）は土壤中に生息していて、シラカシなどと菌根を作っているはずですが、おそらくこの足もとの地下にはそのような菌根があり、そこからスギの樹皮を伝わって菌糸が伸びて、樹上で子実体（きのこ）を作ったものと思われます。



スギの幹から生えるキクバナイグチ

2025-3-5-1

戻る https://sizenkansatu.org/marugoto2025_3_rp.html



キクバナイグチの傘の裏

一般にきのこは地面に発生することが多いのですが、今回のように近くの木
の樹皮の表面や内部を伝わって、地面
から離れたところに出ることもあります。

より高いところから胞子を飛ばすため
でしょうか？

キクバナイグチの傘の裏を見てみま
しょう。

こちらは大きな穴で見やすいですね。
この穴の中の表面に胞子をつくってい
ます。胞子はとても小さいので、肉眼
はもちろん、ルーペでも観ることは
できませんね。（根田仁）